

金融機関にとっても35〜45歳の「ミドル層」の薄さが経営課題だ。中堅層の不在は組織のいびつさに拍車をかける。ヘッドハンティングを手がけるプロフェッショナルバンクは、転職市場にいない人材を「サーチ型」で発掘する。香田好和・取締役は「経営や事業課題に見合った人を探す。『右から左へ』ではない」と話す。

## KEYパーソンに聞く

### プロフェッショナルバンク取締役・香田好和氏

「転職市場にいない人」が対象になる。トップのハンティングは名指しが多いが、「ミドルハンティング」は課題に合わせたポジションありき。登録型人材紹介や転職ポータルサイトなど通常の市場では採れないので手間暇がかかる。40歳前後のマネジメント層で転職活動をしている人はごくわずか。当社は案件ごとのプロジェクトチームで組織立ったサーチ活動をする。どの業界や企業にどのくらい人材がいるか、人脈やサイトなどの公開情報から候補者を探し出す。話をする先の9割は転職を考えてないが「今後の仕事人生に漠とした不安がある」と、聞く耳を持つ人も。ネットワークをいかに広く深く駆使できるかが勝負だ。

——金融機関の現状は。  
フィンテックなどへの対応で外から即戦力を求める先が多いがIT技術の

# 「ミドルハンティング」に強み



## 経営、課題に見合う人材を

知識だけでは力不足。金融への知見も必要で難しい。ウェブマーケティング人材も高レベルが求められる。生き残りをはかる地域銀行は中堅層が手薄。当局の意向で中小企業に寄り添おうとコンサル要素も重視される。たとえば窓販を保険会社からの出向者で賄う先もあるが、銀行の方向性や考え方を移植するのは困難だ。最近では金融系ITベンチャーからのオファーも増えている。

——転職したい人にヘッドハンターの助言を。  
これまでの経歴を客観的に「棚卸し」する必要がある。これからのレジヨンも明確に。「やりたい仕事」と「できる仕事」は違うことが前提。銀行が依頼する際に考えるべきことは、課題解決への本当に必要なスキルを絞ること。何でもできるスーパーマンはいない。採用ポイントをはっきりさせ、今の時代は年齢に捉われ過ぎないのも大事。大手では「採用してやる感」が見える事もあるが考え方を変えねばならない。企業風土や表に出てない指針、上司や管理役員を含め両者の「相性」を重視。3〜5人に逢ってもらえば1人は決まる。クライアント側のNGはほとんどない。顧客企業と一緒に進めているのが奏功している。双方が活躍できる事をイメージできれば、それは良い転職だ。

## 金融庁 遠藤監督局長

# 「まずビジネスモデル」

## ゆうちょも肥大懸念より

金融庁の遠藤俊英監督局長は20日の金融業態のトップを集めた意見交換会で、ゆうちょ銀行に警戒感を示す地域金融機関に「持続可能なビジネスモデルの構築と将来にわたる健全性の確保が、安定的な預金獲得につながる」ときき刺した。

「金融機関と連携し、地域経済の発展を支えるのが本来の役割。公的金融と民間金融のあり方を調査し、望ましいあり方を関係者と議論したい」と述べた。

——ゆうちょの「まずビジネスモデル」について。  
ゆうちょは「まずビジネスモデル」を構築し、健全性を確保し、安定した預金獲得を実現することが大事だ。大阪で開かれるのは初めて。

金融庁で開催された「中小企業等の金融の円滑化に関する意見交換会」での発言。全機関は預金残高が増加するに国信用金庫協会と全国信用組合中央協会は、預入限度額が証券運用の依存を二層高めて1300万円に引き上げられた結果、ゆうちょ銀行の貯金規模は拡大しており、公正な競争条件が確保されていない、などと指摘した。

——それに対し、遠藤監督局長は「郵政民営化委員会の審議を見守りたい」としたうえで

近畿財務局 資産形成シンポジウム開催 「積み立て型が王道」を解説

【大阪】近畿財務局は16日、大阪市内で「安定的な資産形成について考えるシンポジウム」を開いた。ファイナシアルプランナーや投資コ

## 日本法教育研究センター10周年 十六銀が記念行事

効果的ブース 事務局が説明

来月25〜27日に初の資産運用EXPOを主催するリードエグゼクティブ・ジャパン(東京・新宿)が10日、出展社幹部へのセミナーを開いた。写真。多種多様な金融商品の比較ができる初の大規模展示会です。すでに約120社が参加を表明。石積忠夫社長は「5万人の動員に全力を注ぐ」と述べ、事務局が効果的なブース設置を説明した。

当日の主催者セミナーでは、フラックロック・ジャパ・浜田直之取締役、マネックス証券・広木隆執行役員、高橋

【名古屋】十六銀行は、名古屋大学内日本法教育研究センター(CJLV)と協力して、同センターが9月に設立した「名大と共催」の記念行事を、15日に同市内で開いた。在ベトナム日本大使公取は「名古屋はアジア法整トナム司法相も訪れ、今後の司法制度改革を担う高度人材育成のため、国、企業、銀行を呼びよせた日本の支援を、お祝いしたい」と述べた。

名古屋大学、ハノイ法科大との共催。名古屋大は法整備支援事業の拠点として、10年前にCJLVを設立。名



祝賀パーティーにはベトナム司法相らを訪れた(左端は村瀬幸雄・十六銀頭取)

## 独想 (8)



岩波書店は先ごろ、広辞苑の第七版を来月1月12日に発行すると発表した。

戦後間もない1955年の初版から60年余り、発行部数は累積で軽く1000万部を超えている。まさに国民的辞書といわれる所以だ。

今回は10年ぶりの改訂で、収録語数は約25万項目。その中には、「フラック企業」「ちらら」と、新たに1万語が追加されている。

古代、言葉は言霊(ことだま)であり、わが国は「言霊の助くる国」(柿本人麿)だとする素朴な信仰があった。しかしながら、すでに鎌倉時代末期、吉田兼好は「徒然草」の中で、卑しく見苦しいものとして会話や文章に言葉が多く使われ過ぎることを挙げていた。

その点からすれば、饒舌(じょうせつ)な現代人は彼を大いに嘆かせること請け合いだろう。けれども、現代人が饒舌になったのは故なきことではない。

それはおそろしく、テレビをはじめとするマスメディアの言葉の使い捨てが、言葉のいのちを奪ったからに違いない。死んだ言葉あるいは質量の軽くなった言葉は、大量に使うことなしには、その機能を発揮できないであらう。

## 言霊(ことだま)の一撃

フランス語を離れ、言葉の宿命、東西、枚挙の秋、たがガフリと、鮮烈語の継がれ、まさにこれまでも「フーメラ」した一撃、ちみなに、いるマザ、る。

「思考」は、いづつか、薬に気を、つか行動、をつけな、慣になる、なさい、るから、性、それは、ら、(なかむら、用金庫相